



# 湘南桜友会報

第14号 平成23年12月10日発行

発行責任者 竹内 猛  
編集責任者 佐藤 清崇  
事務局 茅ヶ崎市中海岸 4-4-11  
浦田憲一方

## 結界の撤廃と国民の幸福度

湘南桜友会会長 竹内 猛 (昭和33年 政経)

○先日、ある雑誌のコラムで「敷居をまたぐ」という言葉に見られるように、敷居には特別な意味がある。敷居は結界なのである。またぐとは、結界を出入りすること、つまり一つの世界から別の世界に移動することを意味する。二度とこの家の敷居はまたがせない!は、家に入ることを拒むだけでなく、その世界からの追放・絶縁・絶交を示す。<住宅解体新書・永江朗著>という話に出会った。特に文中の「結界」という単語に、久しぶりに会った友人のような懐かしさを覚えた。

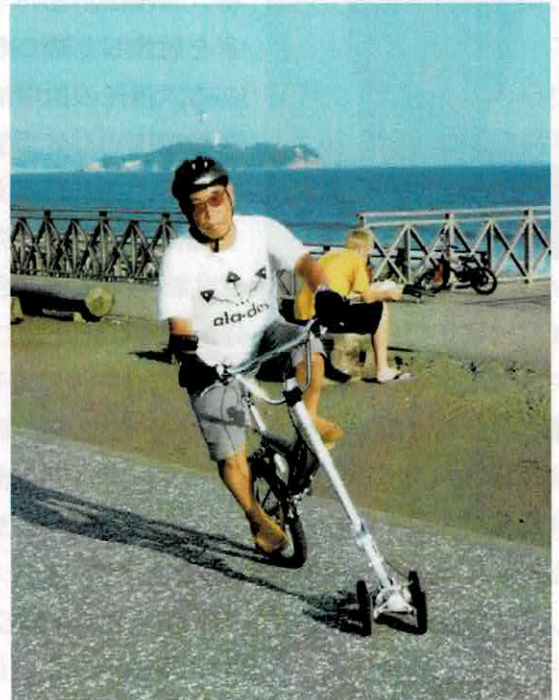
○広辞苑で「結界」を引くと①仏教の修行修法のために一定区域を限ること。又その区域に修業の障害となるものを入らせないこと②寺院の内陣と外陣の間、又は外陣中に僧侶の座席を分かつために設けた木柵③商家の帳場格子、とある。

要するに結界とは、二つの世界を分かつ境界線上にある仕切り物のことで、それは具体的なものであるということだ。又それは物体であったり、時には文言や文書(法律や約条)であったりもする。

若いころを思い出してみると、学生時代の私は、結界を精神的なもの抽象的なものと捕えていたのだろう、ゼミやクラブ活動での学内外活動～農村調査や基地反対運動、演劇活動や渡り鳥運動等々～でも、それは一所懸命やったつもりだったが、殆ど周りは何も変わらず、結界に針ほどの穴すらあけられずに終わったという無力感をもっていた。正に青二才の見本だった。結界の両側にある二つの世界を詳しく知らなければ、それを除くことが出来ないと本当に解ったのは、ずっと後になってからであったので、誌上の結界という単語を見て、異常な懐かしさを感じたのだと思う。

○グローバリゼーションの名の下に、大店立地法ができ、駅前商店街が寂れ、加えて郵政民営化で地方の暮らしも不便になったといわれる。

EU(欧州連合)にみるユーロ危機も、加盟国間



(冬に備えて)

の人・物・資本のグローバル化にも基因があるといわれている。

こうした結界の解消を進めたことに、後世の歴史はどんな判断を下すのか、大変興味を覚えることではある。それは、その時代の「幸せ」の基準とその認識度を問うことにもなるからだ。

○今我国では、TPP加盟の賛否が囂しい。この経済連携協定の中核は、どうみても規制撤廃により全てを市場に委ねるといふ、所謂市場原理主義の実行ということであろう。これは二国間協定のFTAと全く異なり、二つの世界にある全ての結界を失くすということである。日米欧など先進諸国のグローバル化による現在の経済危機、又格差拡大による社会の不安定化等を見れば、果してこれ以上結界を解くことが幸せとなるのか、疑問がある事も確かだ。

結論を出すには、未来を見据え、もっと真剣に両側の世界の現状とその魂胆を調べ論ずる必要がある。これは天下分け目の大決戦なのである。

賢明なる諸姉兄よ、子孫のためにも、どうかこの問題から顔を背けないようお願い申し上げる次第…。



～俳句で迎えるわが人生～

原 喜彦 (昭和32年 政経)



私が俳句に興味を持ったのは大学一年の時に「表現法」という課目を履修した時からである。担任の田中清太郎教授は元来英文学専攻だが、日本語の文章表現についても研究さ

れた方で、いろいろな種類の文章を題材として取り上げながら、表現の巧拙を分かり易く解説してくださいました。その中に短歌や俳句も含まれていた。

俳句といえば、芭蕉や一茶は別として、まず出てくるのが高浜虚子に代表される「ホトトギス派」であるが、若い私(当時)としては、むしろ自己主張のある石田波郷、加藤楸邨、中村草田男のいわゆる『人間探究派』、中でも草田男の句に惹かれたものである。

万緑の中や吾子の歯生えそむる

私が社会人となるに当たっては、就職活動が思うようにいかず、当時としては無名で小さな会社しか受け入れてくれなかった。ふるさとの企業を選ばず、東京の有名企業のみを受験したところにも一因があるであろう。その悔しさと反省を俳句に託した時期もある。

そんなある日のこと。友人に誘われて自作の俳句と詩を数点持って田中教授のお宅をお訪ねしたことがある。先生から「詩の方はちっとも巧いとは思わないが、君には俳句の素質は十分あるヨ」と評されて、その気になったことがある。

限界を悟りて幼児と花宴

というのがそれである。その頃詠んだ句の中で自分が気に入っているのは、次のようなものである。

冬日浴びて村あり生ける子等もあり

生き物の如き初潮弱き我

これらは私の若い頃の作品であるが、その後久しく俳句を作ってこなかった。どうも私の俳句は、苦しい時、辛い時に湧き出てくるもののように、社会人五年生頃からは、会社生活が忙しく、仕事にやり甲斐を感じるようになっていたため、正直言って俳

句にまで手が回らなかったということができよう。

六十五歳で子会社の経営に終止符を打ち退職した後、しばらく経ってから、時々心が動くようになり、以来成り行きまかせて詠んでみている。

断たれても幹より芽吹く生命かな  
(剪定をしてもやがて新しい目が出てくる。植物の生命力の何と力強いものか)

彼岸花咲きてふるさと偲ぼるる  
(彼岸花が咲き揃った景色を見ると、遠いふるさとのこと、亡き母のことなどを思い出す)

三年前、私は胃の腺腫を手術し、生まれて初めて入院生活を体験した。これは、その時に詠んだ一句である。

病みて知る生きることの意義そして愛

手術は生命に関わるようなものではなかったが、初めての体験ということで、入院中いろんなことを考えた。「もし今私が死んだら、高齢の妻と四肢に障害を持つ娘はどうなるのだろうか」。この句はそのような不安に伝えるべく、「死んではならない、大切なのは家族の愛だ」という気持ちを詠んだものである。

私も来年、年明けと共に喜寿を迎える。他人様を悪く言うのは控えて、共生の精神で穏やかに余生を送りたいものである。

(『ひろば北九州』10月号より転載)

～私のライフワーク～

亀井 常彰 (昭和36年 理)

退職して早10年、専門の半導体関連の業界も今や様相は一変し10年前の技術は役に立ちません。現在は持っているポテンシャルを利用して



物作りの視点からライフワークとして環境問題に取り組んでいます。(社)産業環境協会のアドバイザーとして、テキストの執筆や講演、年に1回開催している当協会主催の「エコ・プロダクツ展」の手伝いや、二宮町の環境審議会の委員を務めています。「エコ・プロダクツ展」はメーカーだけでなく、



商社や出版業、銀行などからの出展もあり広がりを見せています。毎年ビッグサイトを使用し、20万人弱/年の参加者の規模まで育ってきました。皆様も是非一度足を運んでみて下さい。

もう一つはジャズピアノです。クラシックから入りましたが、たまたま弾いていたバッハのフーガの技法を用いてアドリブを弾いているのを聴いてショックを受け興味を持ちました。当時は譜面もなければ教則本もなく、教えを乞う先生もおらず、輸入のLPを擦り切れるほど聴きながら指に取り、譜面化して「ジャズの掟」を学びました。そんな頃、たまたまジャズピアノの草分け的存在の和田 肇さんに出会い手解きを受けました。持っている技量で自分の表現が出来るのが何よりの魅力です。現在はお声がかかれば、結婚披露宴、会合、ホテルのロビーなどに出演しています。

また1回/年、経営している多目的ホール「光と風のミュージアム」で自身のコンサートを開催しています。さて、残り少なくなったこの先、人様には迷惑を掛けたくないの、「ボケ防止」には最適ではないかと思いつけて行こうと思っています。

### [23年度前期活動報告]

#### ～地引網大会の開催ご報告（7月30日・土）～

毎年好天に恵まれた地引網大会も、今年は曇り時々雨の天候の中、会員、ご家族、お子様を含め57名のご参加を頂きました。子供達13人の宝探しのイベントのあと、全員で網を引き、鰯の大漁に歓声をあげ、天ぷら、生しらす、釜揚げしらす、に舌鼓を打ち、和気藹藹と夏休み冒頭の楽しい一日を過ごしました。

来年も大勢の皆様のご参加をお待ちしております。



#### ～第15回SUC（湘南藤沢地区大学OB会）

##### 交流・親睦会（9月24日・土）～

今年は中央大学「藤沢白門会」が幹事校としてグランドホテル湘南にて開催されました。15大学より136名が参加、第一部は千葉景子氏の講演、第二部は親睦交流会～がんばろう東北～のテーマで中央大学グリークラブOB有志によるふるさと応援歌の披露があり親睦を深めました。来年は東京農業大学「湘南なぎさ会」の主催で行われます。

#### ～平成23年・秋「ウォーキングの会」

##### （10月26日・水）～

好天に恵まれ、参加者13名にて湘南遊歩道で江の島、伊豆の山々を臨み、引地川沿いの緑道を散策し長久保公園では季節の草花が広がる中、江の島が見渡せる展望台で手弁当を味わいました。昼食後はヤクルト工場の素敵なサロンで、のんびりとスキンケアを体験、楽しい一時を過ごしました。

尚、24年の春季は4月17日(月)～20日(金)頃の予定で、「大磯オープニング・ガーデン散策・・・」を計画しています。



#### ～桜友会全国支部長会議・桜友会設立90周年

##### 記念式典（11月12, 13日・土、日）～

設立90周年にあたり、全国の支部より会長、世話役が招かれました。今後とも本部組織の整備を進め全国支部、職域桜友会等と連携を一層密にして、若手、現役世代の会員の積極的な参画を得ることを確認しました。

また翌13日には盛大な記念式典が開催され、細川護熙氏の講演が行われました。



～第6回湘南桜友会ゴルフ大会

(11月14日・月)～

年1回秋空のもと、小田急藤沢ゴルフクラブにて鎌倉桜友会の方々も含め11名の方が参加、鎌倉桜友会の木下正弘氏が優勝しました。

来年は小田原桜友会の会員の方々にも声をかけて開催することも計画しております。



～秋のバス旅行(11月17日・木)～

第2回のバス旅行は快晴に恵まれ総勢26名にて、台場のフジテレビの見学、水上バスで隅田川遊覧を楽しみ、亀戸の老舗料亭「升本」にて“あさり鍋”を賞味した後、変りつつある学習院の目白キャンパスを見学しました。皆さん久しぶりに訪れた母校に学生時代を思い出していました。



[平成24年事業計画・サークル活動予定]

- \* 2月中旬 鎌倉・東慶寺 観梅、座禅体験  
(学習院昭和寮会との共催)
- \* 4月下旬 春季ウォーキングの会
- \* 6月2日(土) 第9回総会、懇親会
- \* 6月下旬 会報発行(第15号)

- \* 7月下旬 地引網大会
- \* 9月中旬 第16回SUC交流・親睦会
- \* 10月下旬 秋季ウォーキングの会
- \* 11月中旬 ゴルフ大会
- \* 11月中～下旬 日帰りバス旅行
- \* 12月1日(土) 会報発行(第16号)
- \* 12月15日(土) クリスマス・年忘れ懇親会
- \* 未定

文化事業など地元への還元になる事業を企画

～事務局便り～

湘南桜友会の独自の“ブログ”を開設しています。

<http://oyshonan.exblog.jp>

是非ご覧ください。学習院桜友会のホームページからもリンクしています。

投稿を希望される事項がありましたら事務局 浦田 E-メール：[k-urata@s6.dion.ne.jp](mailto:k-urata@s6.dion.ne.jp) までご連絡ください。

～編集後記～

先日、久しぶりに(と言っても10ヶ月くらいですが)京都の地を訪れました。まだ紅葉には少し早いような頃合いでしたが、御室仁和寺、龍安寺、醍醐寺、そして会報12号で竹内会長が言及していた青蓮院門跡などへ行きました。美しい庭を見ながら抹茶をいただくのはまた格別の喜びです。2冊目の御朱印帳も間もなく一杯になります。次に京都を訪ねるのは果たしていつの事になるでしょうか。

(佐藤清崇)

会費納入のお願い!

年会費未納の方は、2,000円を下記にお振込みをお願いします。

- \* 郵便口座番号：00270-6-93815
- \* 加入者名：湘南桜友会
- \* 4月に送付した振込用紙をご利用いただくと、振込手数料がかかりません。